

経営比較分析表

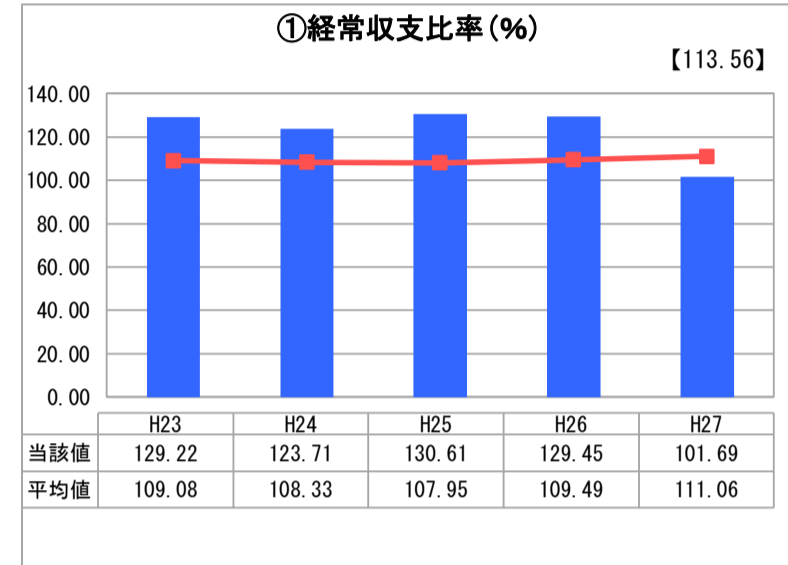
大分県 豊後大野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A7
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	37.53	34.75	3,140

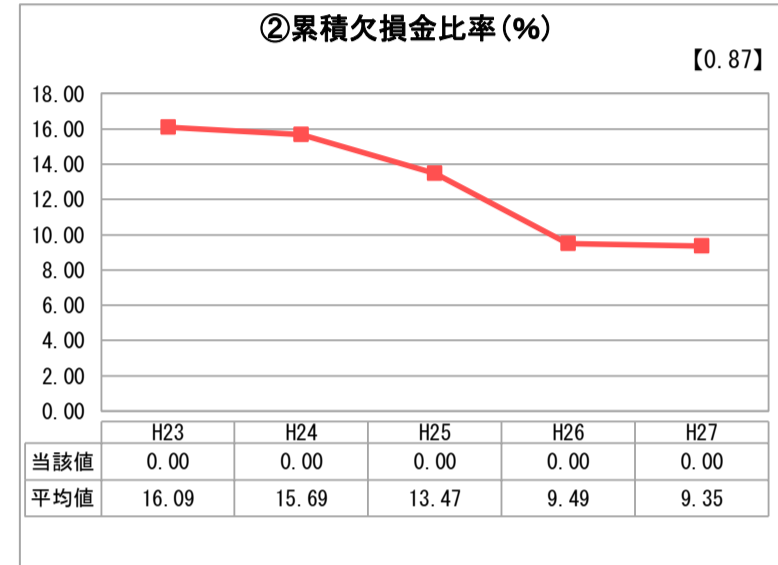
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
38,078	603.14	63.13
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
13,146	18.81	698.88

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成27年度全国平均

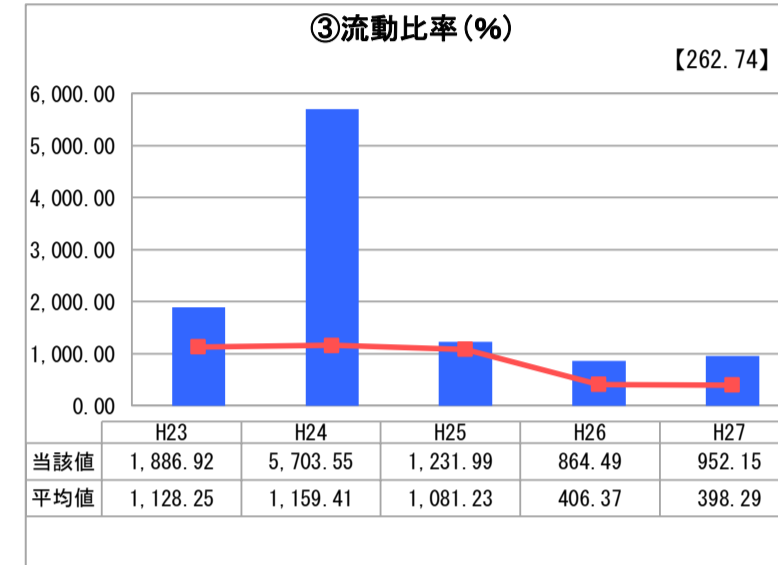
1. 経営の健全性・効率性



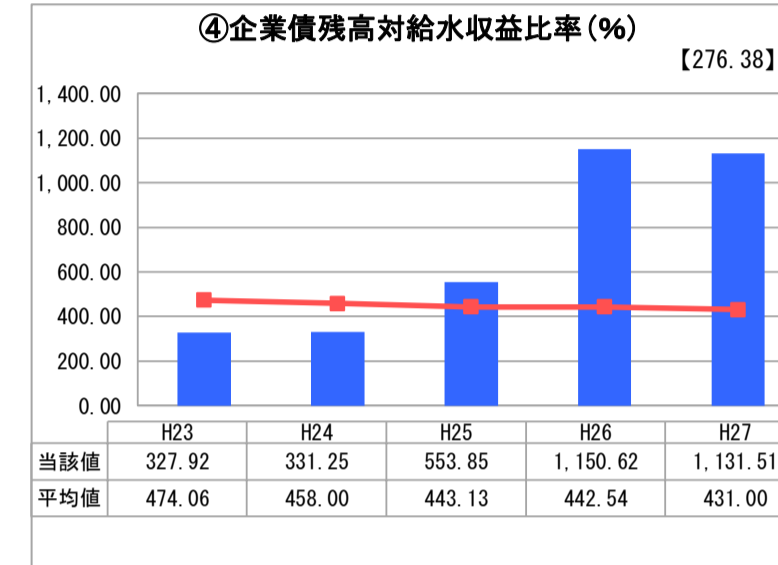
「経常損益」



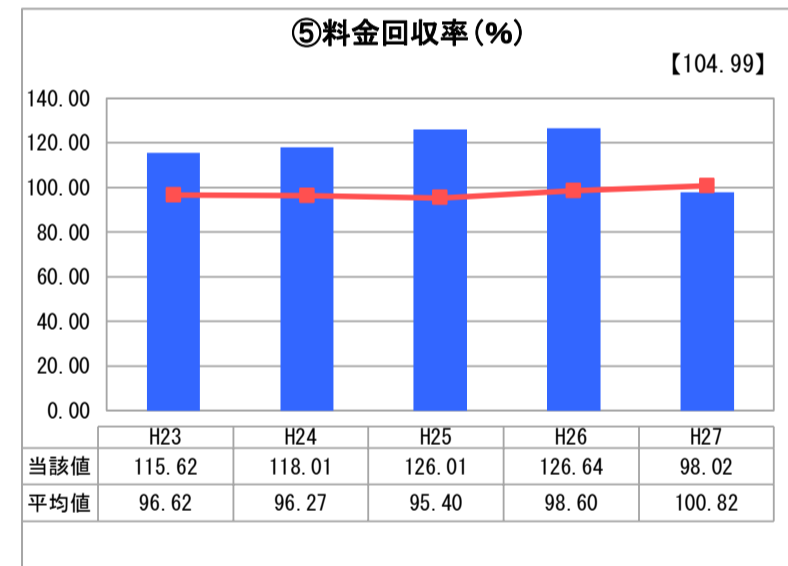
「累積欠損」



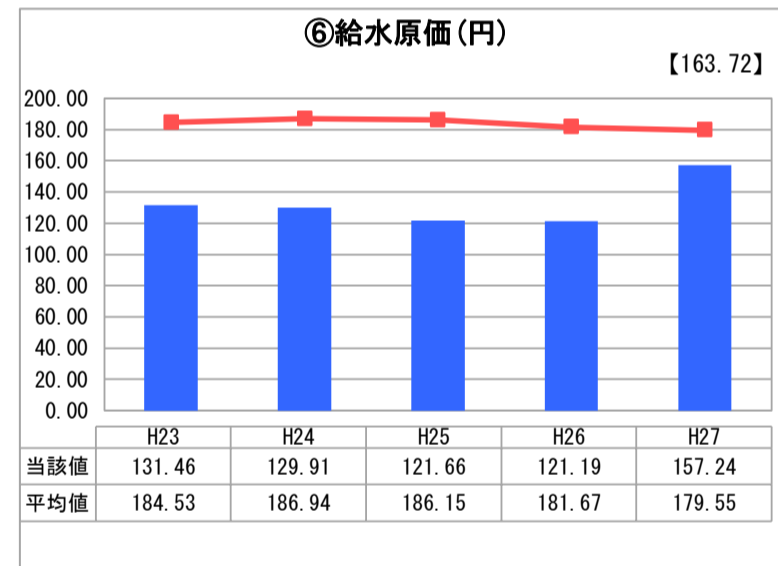
「支払能力」



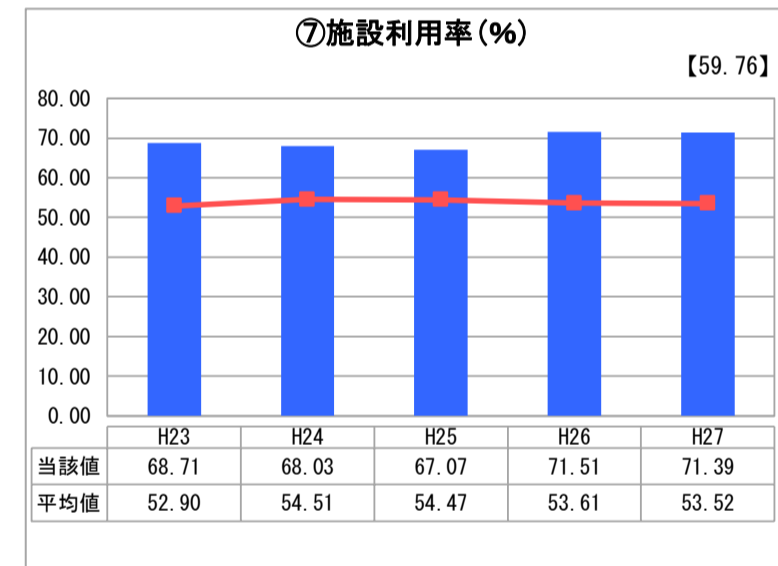
「債務残高」



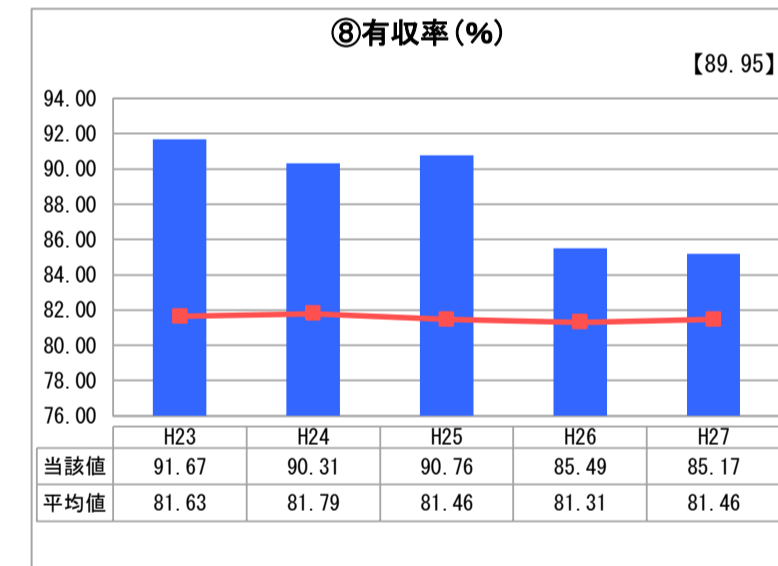
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

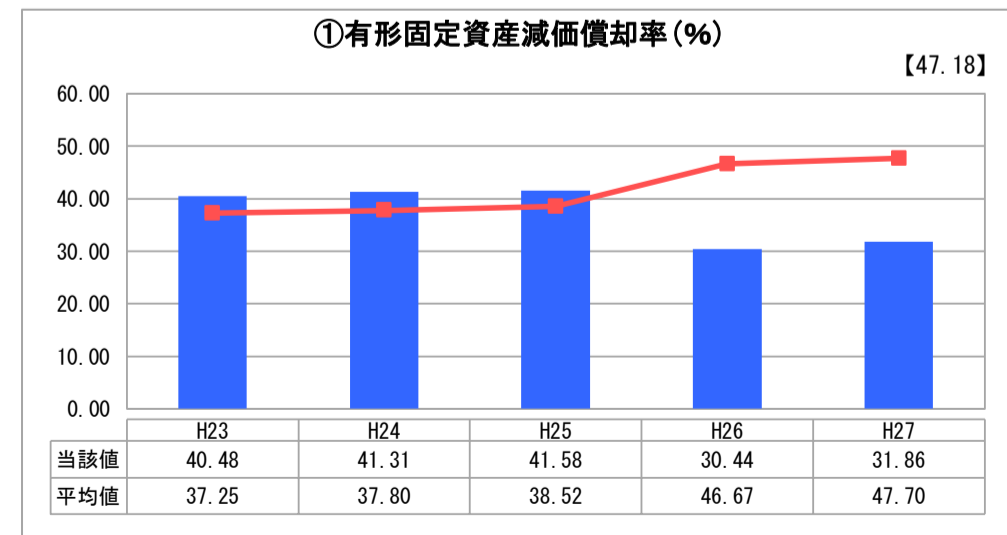


「施設の効率性」

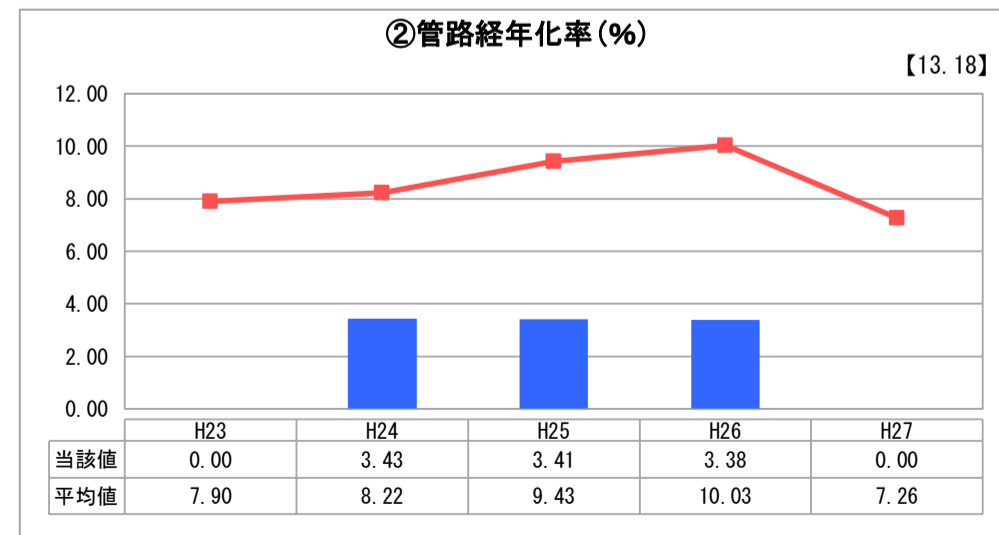


「供給した配水量の効率性」

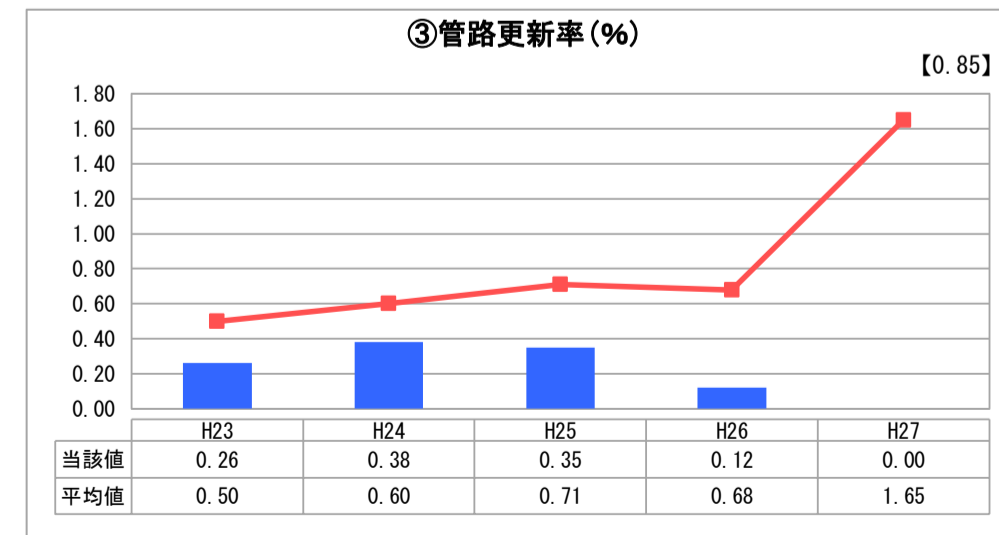
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①『経常収支比率』・・・経常費用が経常収益でどの程度賄われているかを示す指標。100%を上回っており、良好ではありますが、今後とも新浄水場建設の影響で平年と比べ低くなっています。

②『累積欠損金比率』・・・累積欠損金に対する自己資本の割合を示す指標。全国平均、類似団体平均を上回っており、健全な経営状況にあります。

③『流動比率』・・・流動負債に対する流動資産の割合で短期債務に対する支払能力を表す指標。全国平均、類似団体平均を上回っており、健全な経営状況にあります。

④『企業債残高対給水収益比率』・・・給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。平成26年度の新浄水場建設による多額の企業債借入により、比率が高くなっています。

⑤『料金回収率』・・・給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標。新浄水場の運転が安定するまでの間、旧浄水場との重複運転を行ったため、運転経費が多額になっていることと併せて浄水場の運転管理を民間委託したことにより給水に係る経費が増加したことが原因となっています。

⑥『給水原価』・・・有収水量1m³あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標。類似団体との比較では給水原価は低くなっていますが、「料金回収率」と同様の理由で、平年と比べ増加しています。

⑦『施設利用率』・・・配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。高い水準で推移しており、健全であるといえます。

⑧『有収率』・・・施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。全国平均に比べて低くなっています。今後とも漏水調査を定期的に行い、有収率向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

①『有形固定資産減価償却率』・・・有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標。新浄水場建設により、平成26年度以降数値が低くなっています。

②『管路経年化率』・・・法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標。管路更新を行っていないため数値に反映されていませんが、老朽化は進んでいると考えられますので、今後は計画的に更新していく必要があります。

③『管路更新率』・・・当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標。「管路経年化率」同様、管路更新を行っていないため、数値に反映されませんが、今後は計画的に更新していく必要があります。

全体総括

新浄水場の建設による一時的な影響はあるものの、健全な状況にあるといえます。しかし、今後は企業債の償還及び老朽管の更新等により、経営の状況が厳しくなることが推測できることから、水道料金の適正化も含め、更なる経営の効率化の検討が必要と思われます。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。